

# タウンニュース

川崎市宮前区版 2023年9月1日掲載

## 市政報告 「昭和大学鷺沼新キャンパス」に寄せる期待は 「駅周辺再整備との相乗効果なるか」 みらい川崎市議会議員団 おだかつひさ

鷺沼4丁目の旧日本精工運動場の跡地に、昭和大学の新キャンパスが計画されています。その概要説明会が8月8日に実施されました。

①鷺沼駅周辺の拠点性向上・宮前区全体の魅力向上に資する都市機能の導入(若い世代の創出)。  
②防災機能の強化と環境負荷の低減。  
③大学の2年から3年次を中心に、約2000人の学生を想定。令和6年度中に工事着手、令和9年度開校の予定です。病院や診療所等の整備計画はないとのこと。

④周辺に緑地を開放、医療等の出前講座を予定する等)。  
⑤周辺に緑地を開放、医療等の出前講座を予定する等)。

この計画では「地域と共生するキャンパスづくり」が目標に掲げられています。

③周辺の住環境に配慮した良好な都市景観の形成(緑を残し、敷地境界からセットバックして景観

負荷に対応する等)。  
④防災機能の強化と環境負荷の低減。  
⑤周辺に緑地を開放、医療等の出前講座を予定する等)。

以上が4つの柱です。  
医、歯、薬、保健医療

学部の2年から3年次を中心に、約2000人の学生を想定。令和6年度中に工事着手、令和9年度開校の予定です。病院や診療所等の整備計画はないとのこと。

周辺住環境に最大限配慮  
これまで私は市当局を通じて、周辺環境に配慮した計画を昭和大学に求めてきました。

敷地面積は約3万7000㎡。5万㎡を超えないと環境アセスの対象に

ならず、現グラウンドの現状からは「開発行為」の対象にもならないことか  
ら、昭和大学の「自主アセス」な取り組みが求められます。説明会の内容には、工事車両の通行、日影や、風害問題など「アセス」な検討が反映されています。市としても、現在の二種低層地域では大学を設置できないことから、「一種中高層」へと用途地域の見直しを行い、その後、地区計画により一種低層なみに規制をかける手法を取り入れました。



**おだ かつひさ**  
1961年中区生まれ。駒場東邦高校、中央大学法学部卒業(地方自治、都市政策専攻)国会議員秘書を経て、2003年市議会初当選、以降6期連続当選。第44代市議会副議長。  
好きな言葉「知行合一」、「嫌を避くる者は皆内足らざるなり」有馬在住

建築される建物は、地上3階建て、最高高さ10メートル。現

■計画イメージ(北西を望む)



グラウンドの北側は敷地が低いので、近接住民の皆さんの景観に圧迫感を与えないように最大限の配慮をしているとのこと  
です。  
今回の昭和大学移転に伴い、線路を挟んだ南北のまちの一体感の醸成や、南北自由通路の設置などの議論に弾みがつくことが期待されます。